

【第3号議案】

福岡地域戦略推進協議会地域戦略（案）について

＜地域戦略の構成＞

1. 将来像
2. 情勢認識
3. 戦略指針
4. 目標
5. 戦略
6. 工程
7. 重点分野

1. 将来像

「東アジアのビジネスハブ」

～福岡都市圏は国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域を目指す～

東アジアのビジネスハブとして、日本・中国・韓国・台湾などのビジネスの交流・開発・営業の拠点となり、多様な人材が訪れ、働き、暮らしている。

多様な人材を惹きつける国際競争の優位性として、グローバル人材のコミュニティが賑わい、市民の多言語対応力が高く、多様な資金調達や社会実験など新たなビジネスを生み出す仕組みが充実し、地域外から稼ぐ企業や産業の活動が盛んになっている。人・物・情報が安全で効率的に移動するインフラが整備され、アジア市場へのアクセスや地域内の移動がスムーズになっている。産学官民連携による戦略的で開かれた地域経営が実現し、新しい公共が地域を支えている。

また、成長の果実は暮らしの質の更なる向上に還元され、人々が安心して健康かつ文化的に暮らし、安全性と利便性が高く、自然と共生した持続可能なまちづくりが進んでいる。

これにより、福岡は少子高齢社会における先駆的な地域成長モデルを確立し、世界・アジア・日本・九州全体に貢献している。

2. 情勢認識

アジアの成長と共にビジネス拠点として成長することが可能であり、必然である

～国際貿易都市としての歴史を踏まえて、強みを伸ばし機会を活かす

福岡の強みは、東アジアの中心という戦略的な位置、高い暮らしの質、九州における中枢性などが挙げられる。一方、福岡を取巻く機会としては、アジアの成長、九州の統合の深化などが挙げられる。福岡は、国際貿易都市としての歴史を踏まえつつ、強みを伸ばし機会を活かすことで、アジアの成長と共にビジネス拠点として成長することが可能であり、それを目指すことは必然である。

		機会	脅威
		<ul style="list-style-type: none"> ✓ アジアの成長 ✓ 九州の統合深化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 日本の人口減少 ✓ 日本の国際競争力低下 ✓ 東日本大震災 ✓ 世界経済危機
強み	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 戦略的な位置（東アジアの中心） ✓ 高い暮らしの質 ✓ 九州における中枢性 ✓ 研究・教育機関の集積 	アジアの成長と共にビジネス拠点として成長	多様な人材にとって住みやすく働きやすい環境づくり
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 低い社会的多様性 ✓ 減少する公共投資力 ✓ 断片化したリーダーシップ 	産学官民パートナーシップによるスピードと責任ある推進	内需型産業の革新による雇用基盤の維持

3. 戦略指針

交流の活性化により質を重視した成長を図る

～「住みやすい」から「持続可能」へ

金融危機を発端に、グローバル経済のブロック化が急速に進む中、世界中がアジアに成長の活路を見出そうとしている。一方、福岡においては、人口増加、支店経済といった従来の成長の源泉の先細りは確実である。そのため、内需型産業の革新を通じて地域の雇用基盤を維持すると共に、これまでの福岡の強みを活かしながらも、グローバルな視点で成長の機会を確実に捉えるために、国際競争力強化の戦略指針を「アジアとの交流の活性化により質を重視した成長を図る」と定め、成長の源泉を再構築する。

具体的には、国際貿易都市としての福岡の歴史的必然性を踏まえつつ、戦略的な位置、高い暮らしの質、九州における中枢性、研究・教育機関の集積など現在の福岡の強みを活かし、成長著しいアジアとの交流を、多様性を重視しつつ段階的に活性化することで、「住みやすい地域」から「持続可能な地域」へ、そして「アジア・世界の人々にとっても住みやすい地域」へと、質を重視した成長を図ることである。

4. 目標

産学官民で連携による戦略遂行によって達成すべき目標を、GRP、雇用、人口について設定する

2011年～2020年の10年間での達成目標を、域内総生産(GRP)+2.8兆円(年平均成長率+2.5%)、雇用+6万人(年平均成長率+0.5%)、人口+7万人(年平均成長率+0.3%)とする。

目標指標	目標シナリオ 2011年～2020年 戦略遂行による成長		基本シナリオ 2011年～2020年 現状の推移 (BAU)		(参考) 2000年～2010年の実績 (リーマンショックの影響大)	
	10年間 増加値	年平均 成長率	10年間 増加値	年平均 成長率	10年間 増加値	年平均 成長率
GRP	+2.8兆円	2.5%	+1.6兆円	+1.5%	+1.0兆円	+1.1%
雇用	+6万人	0.5%	+3万人	+0.3%	+3万人	+0.3%
人口	+7万人	0.3%	+4万人	+0.2%	+15万人	+0.6%

注) 戦略の対象期間は2012年5月の策定から10年間を目途にしているが、成長目標は関係者が共有しやすい区切りとして、2010年の実績値を踏まえて2020年に設定する。

注) 2011年から2020年の全国の潜在成長率を1.0%に福岡の比較優位性の0.5%を加味した1.5%をベースの年平均成長率とした場合、本戦略の遂行により福岡都市圏のGRP平均成長率を1.0%押し上げることで2.5%を目指すものである。従って、都市圏GRPは2010年対比で2.8兆円増の達成を目指す。就業者数と人口は、本戦略の遂行によりGRPの年平均成長率2.5%が実現できるとした場合、雇用の維持や新たな雇用の創出、域外からの生産年齢人口の転入などの増加要因により、それぞれ就業者数は対2010年で6万人増、人口は対2010年で7万人増を目指すものと設定する。

5. 戦略

成長の源泉の再構築 ～質の変化への挑戦

1. 域外に向けて挑戦する環境をつくる
2. 人材の多様性を強化する
3. 革新的・創造的な交流の場をつくる

福岡都市圏は、九州域外から稼ぐ産業(移出産業)、人口増加、支店経済という3つの源泉によって成長を実現してきたが、積極的に手を打たなければ、人口増加と支店経済は今後の10年で減衰していくと予測されている。また、移出産業にはまだ成長の余地があり、アジアへの近接性といった強みを活かしきれていない。

従って、質を重視した成長をめざして、移出企業を増やすという視点から「域外に向けて挑戦する環境をつくる」、人口の流入・定着を増やすという視点から「人材の多様性を強化する」、ビジネスの中核機能を強化する視点から「革新的・創造的な交流の場をつくる」ことで、これら3つの源泉を再構築する。

(参考)福岡都市圏の人口は2000年に223万人、2010年に238万人と増加を続けてきたが、2020年は242万人と増加の伸びは衰え、2030年には239万人と減少することが予測されて

いる。福岡に支所を置く主要企業の数は1995年の1,182事業所から、2000年には1,241と増加したものの、2005年には1,146と1995以前のレベルにまで低下している。域外との経済交流については、2010年に九州から中国・韓国に進出している企業数は、それぞれ497社・70社、中国・韓国から九州に進出している企業数は、それぞれ8社・7社である。

6. 工程

戦略の遂行にあたっては、以下の工程に沿って、段階的に取組みを拡充させていく。

- | | |
|------------|-----------------|
| 短期：交流人口の増加 | 施策例) MICE など |
| 中期：ビジネスの開発 | 施策例) 社会実験など |
| 長期：移出企業の成長 | 施策例) 質の高い雇用創出など |

7. 重点分野

取組む重点分野の選択と集中 ～8つのビジネス基盤×8つの重点産業分野

成長の源泉の再構築にあたり、移出産業として重点的に振興する8つの産業分野を選定し、資源を集中的に投入する。また、国際競争の優位性に直結する人材と場づくりについては、それぞれ経済基盤と街づくりとして4つずつ、合計8つのビジネス基盤を集中的に強化する。

8つの重点産業分野	8つのビジネス基盤	
	経済基盤	街づくり
<ul style="list-style-type: none"> ● コンテンツ ● ファッション ● 高等教育 ● 通販 ● <u>集客・交流</u> ● <u>食</u> ● 生活関連サービス (<u>環境</u>、福祉など) ● グローバル研究開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中小企業振興 ● 資金調達 ● <u>人材開発</u> ● 社会実験 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>都心</u> ● <u>ウォーターフロント</u> ● 交通ネットワーク ● 住環境

(注) 2012年度は、この中から下線の分野を中心に、5つの部会を設置する予定である。

【第4号議案】

2012年度（平成24年度）事業計画(案)について

(1) 地域戦略の推進

2011年度に策定した地域戦略の推進のため、部会を設置してプロジェクトを推進する。

各部会では、部会長のリーダーシップの下で取組むプロジェクトを決定し、プロジェクトリーダー（PL。兼副部会長）が中心となってフィージビリティ・スタディを行い、事業計画を作成する。

(1) 観光部会

- 【部会長】 石原進 九州経済連合会 副会長
 【副部会長/PL】 山下真輝 ジェイティービー 旅行事業本部 観光戦略室
 【部会の目標】 ①目的地としての九州の国際的認知の向上
 ②インバウンド・アウトバウンドの双方の交流の活性化
 ③九州の集客交流にとっての福岡都市圏のゲートウェイ機能拡充

(2) 環境部会

- 【部会長】 安浦寛人 九州大学 理事／副学長
 【副部会長/PL】 前田真 九州大学 知的財産本部
 【部会の目標】 ①福岡版スマートシティ・モデルの構想および企画の確立
 ②福岡版スマートシティ・モデルの国内外での認知の向上
 ③九州全体での移出型の新しい環境産業の創出、集積

(3) 人材部会

- 【部会長】 貞刈厚仁 福岡市 総務企画局長
 【副部会長/PL】 加藤暁子 西日本新聞社 客員編集委員
 【部会の目標】 ①多様な人材が活躍する国際的な社会づくり
 ②質の高い雇用を創出するグローバルな企業の育成・立地
 ③国際的なビジネス・活動に関わる市民の増加

(4) 都市再生部会

- 【部会長】 橋田紘一 福岡経済同友会 副代表幹事
 【副部会長/PL】 ウォーターフロント： 佐々木健一 九電工 取締役専務執行役員
 天神・渡辺通： 高崎繁行 西日本鉄道 取締役常務執行役員
 博多駅周辺： 本郷譲 九州旅客鉄道 常務取締役
 【部会の目標】 ①経済産業活動と市民の暮らしを支える、質の高い街づくり
 ②人、企業、投資を呼込む枠組みづくり
 ③街づくりの移出産業化（街づくりノウハウの域外輸出）

※都市再生部会は「福岡都心地域都市再生緊急整備協議会」との連携を随時図る

(5)食部会検討会

※当面は任意の検討会として検討を進め、部会長が決まった場合、幹事会の決議を経て、部会を設立する

【部会長】 未定

【副部会長/PL】 未定

【部会の目標】

- ①福岡・九州の食文化の国際的な高品質ブランド化
- ②九州の食産業の高付加価値化と移出型への段階的な引上げ
- ③観光や都市再生など他テーマとの相乗効果の最大化